

希望の抱ける米子市をめざして&市政の改革を

若者の定着と医療機器産業誘致/鳥医大との地域連携！



鳥取医大の職員数 1500 人 2013/5
学生数 1549 人(鳥医大資料)

高度先進医療 全国的に注目

中海と城山を背景に林立する鳥医大は、高度先進医療で全国的に注目されています。手術ロボット「ダビンチ」の治療は、巷でも関係者の大きな話題となっています。

鳥医大の存在は、地域経済や雇用の分野でも、地域を救うマンモス企業ともいえます。2013年の入院、外来患者延べ数は、56万7000人。診療は、県内外はもとより隣国の韓国、ソ連、中国からも訪れるという評判です。



鳥取医大のひしめく施設群

駐車場の確保・急務

一日の外来患者

1、380人

平日の朝、鳥医大の正面前の県道は車の列が連なっています。駐車場確保は急務です。

22年6月、鳥医大は米子市に「駐車場と教育用グラウンドに」と、湊山球場の土地使用願いを提出されました。

市長はこの要望を「選択の一つ。検討する。」と言ったものの、史跡公園の追加計画を強引に進めています。

今、米子市は鳥医大の環境整備に「何を、なすべきか」。真摯に向き合う時です。

鳥医大を核に、

医療機器

メーカーの誘致を

立地自治体の米子市は「鳥医大が持つモメンタルを、どのようにまちづくりに活かすのか」との批判があります。

最先端の医療機器開発は、新たな産業革命をもたらすとも言われています。

倉吉市は、大手医療機器メーカー(100人体制)の誘致を県内ではじめて実現させたと報道で称賛されています。

企業誘致は、若者の定着と地域経済の波及効果をもたらす、まちづくりのエースです。

米子市は鳥医大のお膝元。医療機器メーカーの誘致は、他市に先駆けて積極的に取り組むべき課題であります。

常に、改革の志



市議会議員
遠藤 とおる

鳥取市・看護専門学校

若者定住のまちづくり

倉吉市・看護四年大学の誘致

鳥取市、倉吉市の両市は、若者定住のまちづくりを熱心に取り組まれています。

鳥取市は看護専門学校(3年)定員560人に市の助成六億円。

倉吉市の看護大学(4年)は定員320人に、県・市町の助成十五、八億円。

両市は、学校誘致の経済波及効果を10億9000万円〜10億1200万円と推定しています。

米子市は、鳥医大1年次の学生160人の受け入れの湊山球場地の使用を拒み、史跡公園の追加指定に9億3000万円の税金投入を計画しています。

史跡公園の経済効果は不明です？

湊山球場跡地の

史跡公園計画に

観光効果は薄い

山陰歴史館の「米子城の概要」パンフに、三の丸跡の遺構は残されていないとあります。